平成22年10月期 第2四半期決算短信

平成22年6月9日

上場会社名　株式会社 トップカルチャー　　上場取引所　東
コード番号　7640　URL　http://www.topculture.co.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）清水 秀雄
問合せ先責任者（役職名）取締役副社長兼総務部長　（氏名）宮原 務　TEL 025-232-0008
四半期報告書提出予定日　平成22年6月14日
配当支払開始予定日　—

（百万円未満切捨て）

1. 平成22年10月期第2四半期の連結業績（平成21年11月1日～平成22年4月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年10月期第2四半期	17,902	16.7	543	24.0	567	17.3	292	12.7
21年10月期第2四半期	15,341	—	438	—	483	—	259	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年10月期第2四半期	24.37	24.28
21年10月期第2四半期	21.62	21.54

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年10月期第2四半期	22,460	7,265	32.1	600.66
21年10月期	23,711	7,151	29.9	591.35

（参考）自己資本　22年10月期第2四半期　7,206百万円　21年10月期　7,094百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年10月期	—	—	—	15.00	15.00
22年10月期	—	—			
22年10月期（予想）			—	15.00	15.00

（注）配当予想の当四半期における修正の有無　無

3. 平成22年10月期の連結業績予想（平成21年11月1日～平成22年10月31日）

（%表示は対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	35,000	18.4	774	11.7	821	12.0	411	18.3	34.26

（注）連結業績予想数値の当四半期における修正の有無　無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無

新規 ―社 （社名 ） 除外 ―社 （社名 ）

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの）

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年10月期第2四半期	12,688,000株	21年10月期	12,688,000株
② 期末自己株式数	22年10月期第2四半期	690,765株	21年10月期	690,765株
③ 期中平均株式数（四半期連結累計期間）	22年10月期第2四半期	11,997,235株	21年10月期第2四半期	11,997,235株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成21年12月11日発表の連結業績予想は、修正しておりません。本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件等につきましては、5ページ【定性的情報・財務諸表等】３．連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

１．　連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間におきましては、政府の経済対策の効果等を背景に、景気は持ち直し傾向にあるものの、企業の収益水準が依然低いことから雇用・所得環境は伸び悩みが続いており、先行きの不透明感が払拭されない状況が続いております。小売業界におきましても、消費者心理の冷え込みからデフレが進行するなど大変厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは「日常的エンターテイメント」をキーワードにリアル店舗の強みである「商品を選ぶ楽しさ」や「店舗に足を運ぶことで得られる新しい発見や感動との出会い」、「居心地の良い空間で時間を過ごす楽しみ」を味わっていただけるよう、品揃えの拡大とライフスタイルを重視した商品提案および店舗運営力の向上を推進し、店舗価値の向上に取り組んでおります。また、オープンより経年経過した既存店については、将来を見据えた移店拡張を積極的に実施し、品揃えの拡大と提案性の高い売場づくりに取り組み、店舗競争力の向上に図っております。当第２四半期においては、移転出店１店（蔦屋書店アクロスプラザ美沢店 300坪⇒600坪）、移転統合による閉店２店（蔦屋書店長岡宮内店、峰弥書店黒埼店）を実施した結果、グループ合計店舗数は76店舗となりました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間の業績は、売上高17,902百万円（前年同期比116.7％）、経常利益567百万円（前年同期比117.3％）、四半期純利益292百万円（前年同期比112.7％）となりました。

売上・利益の増減要因

当社グループの主軸である蔦屋書店部門において既存店売上高前年同期比が99.1％とほぼ前年並みに推移したことに加え、株式会社アンフォルマの完全子会社化に伴う店舗数増加（TSUTAYA11店）が増収に寄与いたしました。商品別では主力商品のうち、書籍が売上高前年同期比117.8％（既存店102.5％）、レンタルが売上高前年同期比121.8％（既存店91.0％）、文具が売上高前年同期比126.1％（既存店120.7％）と売上伸長し、増収に寄与いたしました。特に、文具は既存店において2009年７月より10ヶ月間連続で２桁の売上伸長が続いており、さらなる成長を視野に品揃えの強化や売場の拡大に取り組んでおります。販売用CD・DVDにつきましては、定番商品の提案強化および売場効率化に取り組んだ結果、販売用CDが売上高前年同期比97.6％（既存店84.8％）、販売用DVDが売上高前年同期比103.6％（既存店84.9％）となりました。

利益面につきましては、株式会社アンフォルマ（TSUTAYA11店運営）の完全子会社化に伴い、のれん償却33百万円を計上した一方、当社グループのスケールメリットを活かした店舗運営への切替を進めた結果、仕入原価およびコスト効率が改善され、経常利益は前年同期比17.3％増加し、567百万円となりました。また、店舗の統合閉店等に伴う費用13百万円を特別損失として計上した結果、四半期純利益は前年同期比12.7％増加し、292百万円となりました。

事業の部門別セグメントの状況は、次のとおりであります。

（小売事業）

蔦屋書店部門

当部門につきましては、前述のとおり既存店の売上高が前年並みに推移したことおよび株式会社アンフォルマの完全子会社化に伴う店舗数増加（11店舗）により、売上高は17,335百万円（前年同期比117.3％）となりました。

古本市場トップブックス部門

当部門につきましては、商品買取強化による品揃え拡充や店舗運営の強化に努めてまいりましたが、売上高は486百万円（前年同期比98.7％）となりました。

（スポーツ関連事業）

グランセナフットボールクラブ部門

当部門につきましては、サッカークラブおよびサッカースクールの会員獲得が順調に進んだことによる会費収入の増加および広告収入の増加が売上に貢献いたしました。また、イベント企画の強化にも取り組み、短期スクールの日程追加を実施したことが奏功し、イベント収入についても増加いたしました。以上により、売上高は81百万円（前年同期比116.2%）となりました。

２．　連結財政状態に関する定性的情報

総資産につきましては、前連結会計年度末比1,251百万円減少し、22,460百万円となりました。これは主に、平成21年11月2日付で株式会社アンフォルマを完全子会社化し、連結範囲に含めたことに伴い、総資産が2,409百万円（主な内訳は、商品623百万円、有形固定資産415百万円、のれん301百万円および敷金及び保証金491百万円）増加した一方、現金預金が2,936百万円減少したことによるものであります。なお、現金預金が大幅に減少した要因は、前連結会計年度の期末日が金融機関休業日であり、買掛金、未払金および借入金の決済1,598百万円が当連結会計年度の期首日に繰越となったことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末比1,364百万円減少し、15,195百万円となりました。これは主に、短期借入金による資金調達が320百万円増加した一方、上記要因により買掛金が1,300百万円減少したことおよび長期借入金が返済により531百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末比113百万円増加し、7,265百万円となりました。これは主に、利益剰余金が112百万円増加したことによるものであります。

当第２四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の期末残高は、前連結会計年度末に比べ2,936百万円減少し、1,125百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の減少は、651百万円（前年同期比943百万円資金減）となりました。これは主に、減価償却費が512百万円計上された一方、仕入債務が1,566百万円減少したことによるものであります。なお、仕入債務が大幅に減少した要因は、前連結会計年度の期末日が金融機関休業日であり、当連結会計年度の期首日に仕入債務が繰越となったことによるものであり、これを勘案した営業活動による資金の増加は895百万円となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は、699百万円（前年同期比546百万円資金減）となりました。これは主に、平成21年11月2日付で株式会社アンフォルマの全株式を取得し完全子会社化したことに伴い、連結子会社株式の取得による支出が630百万円発生したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、1,585百万円（前年同期比1,338百万円資金減）となりました。これは主に、長期借入れによる収入が280百万円あった一方、短期借入金の返済による支出が350百万円、長期借入金の返済による支出が984百万円、リース債務の返済による支出が353百万円発生したことによるものであります。

３． 連結業績予想に関する定性的情報

当第２四半期の業績が概ね計画通り推移していることから、平成21年12月11日に公表した通期の連結業績予想に変更はありません。

４． その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
（1）【四半期連結貸借対照表】

（単位：千円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成22年４月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年10月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,135,221	4,072,065
売掛金	269,276	238,125
商品	6,796,849	6,262,371
貯蔵品	958	1,975
前払費用	295,649	225,190
繰延税金資産	81,034	72,030
未収入金	345,605	532,389
その他	19,242	45,723
貸倒引当金	△330	△349
流動資産合計	8,943,508	11,449,523
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,360,435	2,228,056
リース資産（純額）	3,605,794	3,659,427
その他（純額）	737,036	664,056
有形固定資産合計	6,703,266	6,551,540
無形固定資産		
のれん	329,454	32,759
その他	52,045	51,702
無形固定資産合計	381,500	84,462
投資その他の資産		
繰延税金資産	67,613	54,836
敷金及び保証金	4,449,299	3,979,684
その他	1,916,609	1,593,344
貸倒引当金	△1,420	△1,420
投資その他の資産合計	6,432,102	5,626,445
固定資産合計	13,516,869	12,262,447
資産合計	22,460,377	23,711,971

（単位：千円）

	当第２四半期連結会計期間末 （平成22年４月30日）	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 （平成21年10月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,871,347	4,171,525
短期借入金	1,645,040	1,325,040
1年内返済予定の長期借入金	1,061,080	1,234,192
リース債務	605,050	649,045
未払法人税等	252,733	204,447
賞与引当金	81,000	63,000
未払金	343,469	438,305
その他	625,466	363,442
流動負債合計	7,485,187	8,448,997
固定負債		
長期借入金	3,926,602	4,457,834
リース債務	3,066,069	3,081,221
退職給付引当金	127,797	109,899
役員退職慰労引当金	72,476	72,476
長期未払金	344,709	221,786
長期預り敷金保証金	172,434	167,806
固定負債合計	7,710,088	8,111,023
負債合計	15,195,276	16,560,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,007,370	2,007,370
資本剰余金	2,303,691	2,303,691
利益剰余金	3,207,562	3,095,132
自己株式	△309,060	△309,060
株主資本合計	7,209,563	7,097,133
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,295	△2,588
評価・換算差額等合計	△3,295	△2,588
新株予約権	37,703	35,318
少数株主持分	21,130	22,086
純資産合計	7,265,101	7,151,950
負債純資産合計	22,460,377	23,711,971

(2)【四半期連結損益計算書】
【第２四半期連結累計期間】

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成20年11月１日 至 平成21年４月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）
売上高	15,341,542	17,902,638
売上原価	10,532,948	12,306,421
売上総利益	4,808,594	5,596,217
販売費及び一般管理費	4,370,328	5,052,936
営業利益	438,265	543,280
営業外収益		
受取利息	16,604	18,683
受取地代家賃	29,799	40,487
その他	38,799	37,410
営業外収益合計	85,203	96,582
営業外費用		
支払利息	39,471	72,198
営業外費用合計	39,471	72,198
経常利益	483,997	567,665
特別損失		
減損損失	1,668	－
固定資産除却損	－	13,906
特別損失合計	1,668	13,906
税金等調整前四半期純利益	482,328	553,758
法人税、住民税及び事業税	229,786	234,324
法人税等調整額	△8,254	28,002
法人税等合計	221,532	262,326
少数株主利益又は少数株主損失（△）	1,417	△956
四半期純利益	259,378	292,388

【第２四半期連結会計期間】

（単位：千円）

	前第２四半期連結会計期間 （自 平成21年２月１日 至 平成21年４月30日）	当第２四半期連結会計期間 （自 平成22年２月１日 至 平成22年４月30日）
売上高	7,215,017	8,384,970
売上原価	4,924,033	5,678,989
売上総利益	2,290,983	2,705,981
販売費及び一般管理費	2,143,031	2,448,618
営業利益	147,951	257,362
営業外収益		
受取利息	8,457	9,754
受取地代家賃	15,625	23,540
その他	15,059	25,071
営業外収益合計	39,142	58,366
営業外費用		
支払利息	17,909	36,081
営業外費用合計	17,909	36,081
経常利益	169,184	279,647
特別損失		
減損損失	1,668	－
固定資産除却損	－	13,906
特別損失合計	1,668	13,906
税金等調整前四半期純利益	167,515	265,741
法人税、住民税及び事業税	106,306	131,978
法人税等調整額	△24,861	△9,064
法人税等合計	81,444	122,914
少数株主損失（△）	△773	△1,072
四半期純利益	86,844	143,900

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

（単位：千円）

	前第２四半期連結累計期間 （自 平成20年11月１日 至 平成21年４月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	482,328	553,758
減価償却費	152,251	512,261
減損損失	1,668	－
のれん償却額	4,035	37,969
貸倒引当金の増減額（△は減少）	0	△19
賞与引当金の増減額（△は減少）	△600	△4,450
退職給付引当金の増減額（△は減少）	△1,315	△3,852
受取利息及び受取配当金	△16,840	△18,975
支払利息	39,471	72,198
固定資産除却損	－	13,906
売上債権の増減額（△は増加）	△7,270	15,141
たな卸資産の増減額（△は増加）	457,030	94,063
仕入債務の増減額（△は減少）	△156,889	△1,566,117
未払消費税等の増減額（△は減少）	427	△40,540
長期前払費用の増減額（△は増加）	△507,402	58,694
その他	△25,160	△125,749
小計	421,735	△401,710
利息及び配当金の受取額	547	976
利息の支払額	△38,003	△73,056
法人税等の支払額	△92,372	△178,109
営業活動によるキャッシュ・フロー	291,907	△651,899
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△243,863	△94,064
無形固定資産の取得による支出	△5,130	－
投資有価証券の取得による支出	△209	△271
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	－	△630,313
敷金及び保証金の回収による収入	145,847	190,926
敷金及び保証金の差入による支出	△50,000	△176,021
その他	－	10,086
投資活動によるキャッシュ・フロー	△153,356	△699,658
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	－	△350,328
長期借入れによる収入	825,000	280,000
長期借入金の返済による支出	△895,024	△984,344
リース債務の返済による支出	－	△353,113
配当金の支払額	△177,184	△177,499
財務活動によるキャッシュ・フロー	△247,208	△1,585,285
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△108,657	△2,936,843
現金及び現金同等物の期首残高	1,221,439	4,062,065
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,112,781	1,125,221

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第２四半期連結累計期間（自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間（自 平成20年11月１日 至 平成21年４月30日）及び当第２四半期連結累計期間（自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める「小売事業」の割合が、いずれも90％を超えるため、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第２四半期連結累計期間（自 平成20年11月１日 至 平成21年４月30日）及び当第２四半期連結累計期間（自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）

在外連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第２四半期連結累計期間（自 平成20年11月１日 至 平成21年４月30日）及び当第２四半期連結累計期間（自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第２四半期連結累計期間（自 平成21年11月１日 至 平成22年４月30日）

該当事項はありません。

６． その他の情報

商品別売上状況

区　分			前第２四半期連結累計期間（自　平成20年11月１日　至　平成21年４月30日）		当第２四半期連結累計期間（自　平成21年11月１日　至　平成22年４月30日）		前年同期比（%）
			売上高（千円）	構成比（%）	売上高（千円）	構成比（%）	
小売事業	蔦屋書店部門	書籍	6,099,100	39.8	7,182,580	40.1	117.8
		レンタル	3,212,767	20.9	3,913,846	21.9	121.8
		文具	1,386,466	9.0	1,748,557	9.8	126.1
		販売用CD	1,769,368	11.5	1,727,605	9.7	97.6
		販売用DVD	1,076,955	7.0	1,115,531	6.2	103.6
		ゲーム	520,134	3.4	830,617	4.6	159.7
		リサイクル	106,440	0.7	98,519	0.5	92.6
		その他	607,908	4.0	718,276	4.0	118.2
		小計	14,779,141	96.3	17,335,534	96.8	117.3
	古本市場トップブックス部門		492,620	3.2	486,034	2.7	98.7
スポーツ関連事業	グランセナフットボールクラブ部門		69,780	0.5	81,069	0.5	116.2
合計			15,341,542	100.0	17,902,638	100.0	116.7